



「雪ニモマケズ」元気に走るぞ!

1/27 大堰川ジョギング大会

広報
なんたん

もくじ

- 2 特集・ものづくりのまち南丹市
- 6 晴れやかに二十歳の門出を祝う —平成20年南丹市成人式—
- 10 行政トピックス
- 14 いきいき南丹／ぶらりなんたん ～西乗寺～
- 16 図書館へようこそ／人権の窓／なんたんミュージアム

2月号

2008年 Vol.26

特集・ものづくりのまち南丹市

くらしに根付く「ものづくり」 ものづくりからはじまる「まちづくり」

豊かな風土を生かした南丹市の「ものづくり」。今、この「ものづくり」の魅力が、新たな「まちづくり」の活力として注目を集めています。暮らしのさまざまな場面に根付いているもの、創り出されるもの、受け継がれるもの…。

二月二日・三日に開催した『「美」と「和」で「輪」ぶ 南丹文化ジョイントプログラム二〇〇七』の様子とあわせて、南丹市の「ものづくり」文化の一翼を担う「京都伝統工芸大学校」と「京都新光悦村」を紹介します。

南丹市ならではの文化祭
—南丹文化ジョイント
プログラム二〇〇七—

平成二十三年に国民文化祭が京都で開催されます。そこで、「南丹市ならではの国民文化祭」に向けた意識の高揚を図るため、二月二日・三日に『「美」と「和」で「輪」ぶ 南丹文化ジョイントプロ



▲各学校から出展があった南丹美術工芸教育展





▲市民の力作が並んだ文化事業共同展示会



▲工芸サークルの方による作品



▲ほっとはあと作品が紹介された工芸作品発表会

「グラム二〇〇七」を市国際交流会館・市文化博物館で開催し、およそ三、二〇〇人が来場しました。

南丹市は、伝統工芸を通じてものづくりの盛んなまちなりつつあります。そこで、市内で活躍される工芸作家や団体の活動と、市民や小・中学生などの工芸への関わりを紹介することで、暮らしに根付く「ものづくり」を発掘し、ものづくりからはじまる「まちづくり」を支援しようと、南丹市・府南丹広域振興局・府南丹教育局などが共同で開催しました。

会場では、南丹市内で活躍

されている方々や団体の作品を展示した「南丹工芸文化祭」、南丹市、亀岡市、京丹波町の公立幼稚園や保育所、小・中学校、高等学校、特別支援学校の幼児・児童・生徒と、京都伝統工芸大学の学生・卒業生の美術工芸作品が一同に展示された「南丹美術工芸教育展」、そして地域における文化の次世代育成と継承について考える「次世代へつなぐ南丹地域文化フォーラム」を同時開催しました。

同フォーラムでは、NPO法人京都匠塾たくみの代表高橋博樹さんによる、「伝統工芸を活かした地域づくり ～次世代継承を通じて～」と題した講演が行われました。京都匠塾は、京都伝統工芸大学の卒業生ら若手職人が、技を受け継ぎ、活躍できる場として設立し、作品の創作や伝統工芸文化の普及活動を行っておられます。園部町本町に開設された、町屋工房「息吹いぶき」を拠点にされた、伝統工芸を生かしたまちづくりに期待が寄せられています。高橋さんは、「工芸をはじめとする伝統文化を、これからの世代がしつ

かりと守っていかなければならない」と語られました。

南丹市のものづくりを発信 —南丹工芸文化祭—

南丹工芸文化祭では、「文化事業共同展示会」「工芸作品発表会」「工芸品展示会」の三つの展示を企画しました。

「文化事業共同展示会」では、能面・パッチワーク・人形・押し花・草木染・陶器・ちぎり絵・はり絵など、地域の工芸サークルで市民が趣味



▲展された作品に見入る来場者



▲工芸品展示会には1,500人が来場しました

や生涯学習の一環としてコツと作り上げられた作品を展示しました。

「工芸作品発表会」では、市内の授産施設で製作・販売されている「ほっとはあと作品」を紹介。より付加価値の高い製品の作成に取り組み、販売力の向上を図ることで、障がいのある方の社会的自立と経済的自立を促進することを目指した「ほっとはあと」事業について、パネル展示などで紹介されました。

「工芸品展示会」では、南丹市内で陶芸や木工、染色などの工芸を営んでいる工芸作家の作られた素晴らしい作品



▲園部小学校での南丹パートナーズスクール



▲南丹パートナーズスクールで作られた木彫刻（園部第二小学校）



▲南丹パートナーズスクールで作られた木箱（園部小学校）

四十五点とともに、工芸を始められたきっかけや、工芸に対する作者の思いなどを紹介しました。丹精込めて作られた一つ一つの作品を間近かで見ることができ、工芸の素晴らしさが感じられました。工芸作家の皆さんが長い年月をかけて培ってこられた匠の技に、ものづくりのまち南丹市の魅力が会場内にあふれていました。

伝統工芸の人材育成を担う

—京都伝統工芸大学校—

「ものづくり」のまち南丹市を支える、京都伝統工芸大

学校は「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づく全国で初の施設として、平成七年に園部町小山東町に設立されました。

同大学校では、陶芸、木工芸、金属工芸など、京都の伝統産業で活躍する現役の伝統工芸士が、教授や講師として直接指導され、多くの卒業生が、伝統産業の後継者として活躍されています。

また、同大学校では、地域の小学生が工芸にふれる機会として、府南丹教育局が主催する「南丹パートナーズスクール」に協力されており、大学の生徒が木箱作り、木彫刻の講師として市立園部小学校・園部第二小学校の児童たちにもものづくりの楽しさを伝えました。完成した作品は南丹美術工芸教育展で展示されました。

また、南丹工芸文化祭には同大学校の学生の作品も展示され、その高い技術力が披露されました。

二十一世紀の

ものづくりの拠点

—京都新光悦村—

江戸時代初期に、芸術家の「本阿弥光悦」によって京都洛北・鷹ヶ峰に形成された職

南丹工芸文化祭来場者のアンケートより

南丹工芸文化祭へ来場いただいた方にアンケートを書いていただきました。その一部を紹介します。

写真入りで作家紹介がしてあったことで、こんなにも作家がいるのかと身近に感じられた。

（四十歳代 女性）

各町で活動されていることは知っていましたが、作品を拝見したことが無かったので、またその地へ行ってみたい気持ちもします。

（五十歳代 女性）

工芸を南丹市から発信しようという思いと、ものづくりの楽しさが伝わってきました。

（五十歳代 男性）

子どもたちは、なかなか大人の作品展に足を運ぶことがないので、自分たちの作品を見て、さらに素晴らしい作品を見ることができるとは良いことだと思います。

（五十歳代 女性）

「僕もこんな作品、作ってみたい！」と意欲を見せていました。よい機会になったと思います。

（三十歳代 女性）

子どもたちが普段なかなか知り得ない工芸文化に触れ、ものづくりへの興味がわいているように感じた。

（？歳代 女性）

本物を見る機会が少ない中、近いところで開催されているのでよかったですと思います。

（四十歳代 女性）



▲園部町内林町・瓜生野地区にある京都新光悦村



▲京都新光悦村では次々と工場が操業されています

人の村「光悦村」では、次々と新しい技や表現が生み出され、日本の芸術・工芸の発展に大きく貢献したといわれています。この「光悦村」の精神を受け継ぎ、「新たな生活文化の創造と産業の活性化をめざす新産業拠点」として京都府と南丹市が連携し整備したのが、京都新光悦村です。平成十八年九月に分譲を開始し、精密金属加工の工場や、木製品製造の工房などが操業されているほか、精密研磨・和菓子製造などの企業が進出を決定されています。

陶芸や木工、ガラスなどの工芸作家や食品産業、機械金
属、電子部品など先端技術の企業などから京都新光悦村への関心が高まっており、伝統産業と先端産業が融合するこれからの「ものづくり」の拠点として、大きな期待が寄せられています。

京都新光悦村の誘致に関する最新の情報は京都府のホームページで掲載をされています。(アドレス・http://www.pref.kyoto.jp/shin-koetsu/index_j.html)

「ものづくりのまち」南丹市

南丹市には六十人を超える



▲京都新光悦村では個人の工房も操業が始まっています

工芸作家が、市内で創作活動を営まれています。その中には、豊かな自然に囲まれた環境にあこがれて、他の地域から南丹市に移り住んで来られた方も少なくありません。

ふるさと南丹市の風土や特徴を生かし、生活や文化に力強く根付いている「ものづくり」。今回は、「工芸」の分野にスポットを当てて紹介しましたが、ものをつくるということは、工芸に限らず、人の豊かな暮らしを支える根幹です。土を耕し、米や野菜を作る農業、木を植えて守り育てる林業などもまた、豊かな活力にあふれるまちの発展に

教育展ならばその保護者くらいしか訪れないし、また、工芸展だけならばその関係者の方だけに限られるが、このような関係になることで、互いに参加者が増えてとても良いことだ。
(五十歳代 男性)

心の荒廃が叫ばれる昨今、感じることの大切さと同時に、プロの作品にふれていい機会だと思った。
(六十歳代 女性)

「ものづくり」の意味につながるのか？根底はそうであるが。しかし、子どもからプロまでの作品が一堂にあるのはおもしろい。
(三十歳代 男性)

子どもたちが、この作品展をどれくらい見たかが気になるところ。しかし、その卵が生まれつつあることに、明るい希望をもてた。
(七十歳代 男性)

作品同様、鑑賞者がバラバラで、落ち着いて味わうことができなかった。
(七十歳代 男性)

あくまでも個人規模の作家が多く、いわゆる産地という形ではなく、ものづくりのまちとは感じにくい。ただし、これからのものづくりという点からは、産業としての産地である必要はないと思う。やる気のある若い人がより多く、自然発生的に集まってくれば、より良くなるでしょう。
(三十歳代 男性)

重要な「ものづくり」です。『森・里・街がきらめくふる南丹市では、各分野において、熟練した技をつなぐ「ものづくり」の後継者を育て、組んでまいります。

晴れやかに二十歳の 門出を祝う



—平成二十年南丹市成人式—

▲成人の誓いのことばを述べる湯浅昌慶さん（左）



▲代表して記念品を受け取る岩佐知佳さん（左）

一月十三日、南丹市成人式を南丹市園部公民館で行いました。式には三百二十六人の新成人が出席し、晴れやかに門出を祝いました。

今年の成人式の対象者は、昭和六十二年四月二日から昭和六十三年四月一日生まれで、南丹市内に住所のある方、四百六十八人（園部町二百七十八人・八木町八十九人・日吉町四十九人・美山町五十二人）を招待したほか、南丹市内の小・中学校の卒業生や、南丹市から転出した方で南丹市での成人式を希望される方なども対象としました。

式典には、京都府や南丹市議会など多くの来賓と、小・中学校時代の担任の先生方など多数が出席され、新成人を盛大に祝いました。



▲久しぶりの再会に会話がはずみます

式典では、齊藤進市教育委員会教育委員長の開会宣言の後、佐々木稔納市長が「ふるさと南丹市に愛着を持ち、積極的にまちづくりに参加してください。みなさんの若い力に大いに期待しています」と式辞を述べました。また、出席した新成人に南丹市から記念品を贈りました。

最後に、新成人を代表して湯浅昌慶さんが「しっかりと

**成人に
なった感想を
聞きました**

大人として、自覚と責任のある行動をし、これからもふるさとを大事にしていきたいです。



若江 友美さん
(美山町)

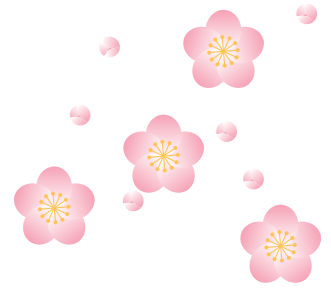
小学校で働いています。子どもたちが元気に成長できるまちづくりを応援したいです。



八木 加奈江さん
(八木町)



▲326人の新成人が式典に出席



真っ向から社会に立ち向かう、強い心を持った社会人になります」と成人となった抱負と決意を述べられました。

式典終了後には、記念写真の撮影や各地域ごとに懇親の場を設けました。友人や恩師との久しぶりの再会に、思い出話をするなど、すがすがしい笑顔があふれていました。

二十歳の決意を新たに記念撮影



▲記念撮影（日吉町）



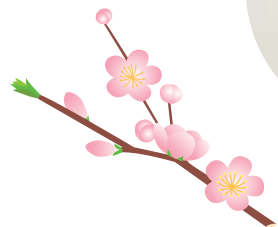
中川 大樹 さん
（園部町）

まだ、自分の将来像がはっきり決められていないけれど、いっぱい勉強して、世界に通用するような仕事をしたいです。



栃下 拓也 さん
（日吉町）

今は、市内で仕事をしています。多くの経験を重ねて、大人として一人前と認めてもらえるように頑張ります。





▲記念撮影（美山町）



▲記念撮影（八木町）



▲記念撮影（八木町）



▲記念撮影（園部町）



▲記念撮影（園部町）



▲記念撮影（園部町）



安心・安全を守る誓いを新たに

―南丹市消防団出初式―

一月六日、南丹市消防団の出初式をスプリングスびよし体育館で行い、市消防団から四百十二人と消防ポンプ自動車など二十台が参加しました。

式典では、益田武彦団長

が、「火災のない、災害に強い

まちづくりに尽力してほし

い」と訓示。また、京都府消防

協会会長表彰および市長表彰、

団長表彰などが行われ、日ご

ろから献身的な消防団活動を

してきた団員をたたえまし

た。

式典終了後には大堰川沿い

で一斉放水を行い、団員らは

今年一年の無火災を願って放

水を披露しました。

最後に参加者全員で万歳三

唱を行い、地域の安心・安全

を守る誓いを新たにしまし

た。

なお、被表彰者は次のとお

りです。(敬称略)



▲団員の活動をたたえた表彰式

【日吉支団】久野 秀一

●精勤章

【園部支団】角 欣也▽佐々

谷 隆司

【八木支団】川勝 博志▽廣

瀬 輝明

【日吉支団】小林 善則▽吉

田 晃

【美山支団】小原 昭雄▽古

北 勝志▽中島 勲

●精勤章

【園部支団】垣村 辰男▽高

屋 良広▽西田 俊樹▽奥村

雅史▽佐井 佳孝▽齊藤 武

志

【八木支団】谷 英樹▽西田

敏▽岸上 直樹▽榎原 克幸

▽平井 幹也▽波部 吉宏

【日吉支団】中川 貴文▽小

林 康彦▽山本 和彦▽土井

賢一▽中川 高志▽中坂 昌

司

【美山支団】梅津 博英▽眞

壁 正志▽谷 裕之▽大萱

聡▽下東 茂隆▽福原 英樹

南丹市長表彰

【園部支団】岡田 紀章▽森

豊貴▽内藤 稔▽森 博史▽

内藤 康明▽片山 信玄▽西

南丹市消防団長表彰

【園部支団】谷口 敏弘▽藤



▲412人の消防団員が参加した出初式

田 茂樹▽中井 貴信▽中井

賢次

【八木支団】井上 淳▽林

秀隆▽松本 則明▽栗山 一

也▽平家 忠幸▽藤井 雅章

▽齊藤 整▽松本 誓司▽福

田 亘孝

【日吉支団】湯浅 浩史▽今

井 二郎▽小林 隆良▽谷内

和也▽丸山 一成▽宇野 俊

幸

【美山支団】市川 小夜子▽

西野 昭一▽林 紀之▽山崎

浩史▽中村 誠▽松永 茂吉



▲勇壮な一斉放水を披露

田 剛潔▽坂矢 恵太▽片山
 勝司▽野々口 大介▽小島
 完▽片野 修実▽北村 良行
 ▽西山 嘉一▽山下 真司▽
 上田 善郎▽山内 直樹▽松
 本 勝己▽奥村 昌広▽中尾
 克則▽安達 裕行
 【八木支団】松本 喜孝▽木
 村 武▽片山 善秋▽白井
 出▽山下 尚史▽雨宮 有治
 ▽竹上 利晴▽羽野 晋章▽
 岩谷 哲也▽國府 司▽中川
 頼宏▽所 修正▽前川 純一
 郎▽國府 剛▽福嶋 哲也▽
 徳山 隆司

二十年勤続表彰

【八木支団】池田 一哉▽松本
 龍二▽麻田 洋二▽石橋 栄
 次▽今西 正明▽今西 均▽
 川勝 忠和▽浅田 幹雄▽福
 田 富御▽井尻 博也▽浅田
 誠▽麻田 昌裕▽松崎 和幸
 ▽星尾 日出夫

【日吉支団】土井 賢二▽竹林
 優▽船越 繁樹▽吉田 幸広
 ▽内藤 俊樹
 【美山支団】小野 秀明▽大
 萱 聡▽近澤 幸次▽橋本
 乾一▽大家 義輝▽福本 晃
 ▽木戸 芳典▽樋口 也寸志
 ▽内牧 裕幾▽梅津 吉弘▽
 梅津 政弘

十年勤続表彰

【八木支団】若井 睦己▽井

上 淳▽木村 武▽片山 善
 秋▽廣瀬 睦▽白井 出▽
 佐々木 達也▽松本 清臣▽
 平家 忠幸▽國府 司▽中川
 頼宏▽谷 学▽小島 融▽田
 中 篤司▽筒井 敏明▽齊藤
 整▽國府 剛▽山田 泰正▽
 西田 眞一▽西田 武志▽水
 口 敏明▽永田 育立▽八木
 誠▽谷口 広和

【日吉支団】鴨井 篤司▽内
 藤 卓磨▽山内 貴之▽田伏
 昌之▽山浦 淳▽久野 義彦
 ▽木村 亨▽仲川 円▽榎本
 洋一▽竹野 宏明▽出野 大
 介▽宇野 賢吾▽坂本 勇▽
 中田 勝利▽吉田 利一▽堀
 康徳▽松原 明広▽田鶴
 ▽吉田 泰久▽梶本 和広▽
 加地 哲也▽藤井 豊彦▽藤
 野 日出海

【美山支団】小崎 真弥▽仲
 田 佳史▽長野 悦史▽長野
 久好▽溝上 智也▽木戸 悟
 ▽中藤 暢行▽中嶋 竜一▽
 朝田 啓司▽木本 隆次▽藤
 原 正昭▽時岡 功章

【園部支団】谷 昇▽矢野
 伸幸▽西岡 和義▽松本 義
 昭▽中井 忠司
 【八木支団】川勝 経義▽麻
 田 洋二▽石橋 栄次▽西田
 武志▽麻田 潤
 【日吉支団】木口 富男▽吉
 川 博康▽鴨井 篤司▽木村
 潔▽宇野 健司
 【美山支団】川村 明彦▽大
 家 義輝▽市原 睦則▽廣瀬
 大作▽原田 伸二

京都府知事表彰

●功労章
 【日吉支団】小林 敏雄

●永年勤続功労章

【園部支団】片山 智文

【日吉支団】芦田 茂

【美山支団】東 満

●精励章

【園部支団】犬石 吉洋▽中
 川 充弘▽小林 秀雄▽堀江
 貴之
 【八木支団】廣瀬 薫▽辻田
 浩▽明田 正直▽松本 佐六

【日吉支団】丸山 敏夫▽湯
 浅 宜孝▽栃下 宏輝▽藤岡
 裕英
 【美山支団】岡本 哲爾▽工
 藤 吉幸▽勝山 賢一▽近澤
 章

丹波地方消防連絡協議会長

表彰

【園部支団】谷 昇▽矢野

伸幸▽西岡 和義▽松本 義

昭▽中井 忠司

【八木支団】川勝 経義▽麻

田 洋二▽石橋 栄次▽西田

武志▽麻田 潤

【日吉支団】木口 富男▽吉

川 博康▽鴨井 篤司▽木村

潔▽宇野 健司

【美山支団】川村 明彦▽大

家 義輝▽市原 睦則▽廣瀬

大作▽原田 伸二



和菓子の虎屋が八木町北広瀬で操業開始 —虎屋京都工場しゅん工式—

一月三十一日、八木町北広瀬に建設されていた虎屋京都工場のしゅん工披露が行われ、麻生純京都府副知事や佐々木稔納市長、地元関係者ら約九十人が出席しました。

株式会社「虎屋」は和菓子製造販売の大手企業で、京都工場では、地元産の原材料を使った製品開発も進められる予定です。建物は四階建ての鉄骨・鉄筋コンクリート造で、延床面積は約五、五〇〇平方メートル。周囲の環境に配慮した「自然環境と調和する工場」を概念に、徹底した衛生管理の下で生産が行われます。



▲北広瀬に完成した虎屋京都工場



▲開通を祝いテープカットする市長ら

新たな道路が開通

—下吉田バイパス・トンネル完成式典—

一月二十五日、美山町和泉と宮脇を結ぶ、一般府道泉宮脇線の下吉田バイパス・トンネルが完成し、完成式典を行いました。

下吉田バイパスは全長一、〇三〇メートルで、平成十七年三月には蛍愛橋を含む五五〇メートルが開通しており、残る下吉田トンネルの開通が待ち望まれていました。今回、トンネルを含む残りの四八〇メートルが開通したことで、幅の狭かった地域の生活道路が、大型車両も通行できる安全な道路になりました。

遊びながらふれあい 楽しく子育てしよう

—こつぶっこ広場で

民生児童委員と交流会—
一月十六日、こつぶっこ広場を南丹市日吉保健センターで行いました。日吉町地域の就学前の子育て家庭と、民生児童委員が遊びを通じて、交流を深めようと毎年実施。この日も十二人の子どもとその保護者が参加し、おにごっこや折り紙でのコマ作りなど、一緒に楽しく遊びました。



▲民生児童委員さんと一緒に楽しんだおにごっこ

都市計画区域の拡大による 下水処理計画を審議

—第三回南丹市都市計画審議会—

一月三十日、南丹市都市計画審議会が市役所で行われ、十五人の審議委員が出席されました。

審議会では、園部町地域と八木町地域の南丹都市計画下水道について審議され、これまでの「京都府桂川中流域流連園部町公共下水道」と「(同)八木町公共下水道」を「(同)南丹市公共下水道」として統合することが決定されました。また、都市計画区域の拡大による、各下水道処理区の計画区域の変更が審議されました。



▲下水処理計画について審議されました

地域の相談役 民生児童委員を紹介します

民生児童委員は、地域において援助を必要とする生活に困りの人、一人暮らしの高齢者、母子・父子家庭、障がいのある人などの福祉に関する相談・支援を行うとともに、児童の健全育成のための活動を行っています。また、主任児童委員は、児童福祉に関する相談を専門的に担当しています。ご相談のある方は、お近くの民生児童委員にご相談ください。

南丹市民生児童委員の皆さん(敬称略)

※()内は担当地区です。主任児童委員は旧町全域を担当します。

〔園部町地域〕 《民生児童委員》

石橋 茂一 (宮町)	人見 雅子 (河原町)
井尻 喜美子 (上本町)	木村 明美 (木崎町)
竹内 恭子 (本町)	前田 義明 (木崎町)
山本 雅子 (若松町)	崎山 豊 (内林町・千妻・曾我谷)
貫井 勤 (新町)	藤本 栄子 (瓜生野・熊崎・新堂)
中村 吉郎 (小山東町)	内藤 政男 (船岡)
岩田 政子 (小山東町)	高屋 みち子 (高屋・大戸・熊原)
野口 義雄 (小山西町)	林 正子 (越方・佐切)
村上 昇 (小山西町)	高杉 千津子 (竹井)
大坪 洋子 (小山西町)	今西 保子 (仁江)
吉田 儀正 (栄町)	楠川 進 (船阪)
梅木 寧輔 (美園町)	谷 佳代子 (大西)
今井 恵一 (小桜町)	角 富美江 (穴人)
田中 彰 (城南町)	片山 正信 (半田)
樋口 和満 (横田)	西田 修身 (〇人・〇司)
森 知子 (横田)	野々口きぬゑ (埴生)
森 政美 (黒田)	下間 利夫 (南八田)
小寺 キヨハ (上木崎町)	岡本 みさ子 (天引)

五島 千津子 (法京・大河内)
進士 収 (殿谷・若森・南大谷)
《主任児童委員》
大嶋 久美子・三村 隆夫・西村 逸子

〔八木町地域〕 《民生児童委員》

中川 京子 (本町1丁目)
秋田 弘子 (本町2・3・4丁目)
片山 幹雄 (本町5・6丁目)
湊 正治 (栄町1・3丁目)
加茂 八洲雄 (栄町2丁目)
原 次久 (栄町2丁目・垣内・柴山)
平田 裕子 (本郷東・西・南・北)
澤田 道子 (西田・井ノ尻)
麻田 榮子 (屋賀・観音寺)
中川 晃 (屋賀上・青戸)
村上 不二子 (北屋賀)
國府 清美 (北屋賀)
中川 純子 (氷所)
浅田 祀子 (日置)
廣瀬 洋子 (刑部・北広瀬)
下司 文一 (鳥羽・玉ノ井)
湯浅 幹男 (美里)
今西 豊子 (室河原・木原・池ノ内)
廣瀬 ふき子 (八木嶋)
廣瀬 光子 (南広瀬・大藪・折戸)

〔日吉町地域〕 《民生児童委員》

吉田 光代 (殿田上)
井尻 和夫 (殿田下)
丸山 敏夫 (木住)
鍋田 和夫 (生畑)
近藤 正也 (中世木)
堂前 佐登子 (東胡麻)
坪之内 好野 (新町・後野・日吉平)
船越 重雄 (西胡麻駅前・胡麻莊園・栄ヶ丘)
林 とよ子 (中野辺・中村・角本・イングラント)
木戸 ウメノ (上胡麻)
小島 ちよ子 (広野)
谷川 みゆき (畑郷)
塩貝 しげ子 (上保野田)
井尻 正美 (下保野田)
船越 充子 (志和賀)
宮田 洋二 (上佐々江)
土井 保江 (中・下佐々江)
加地 一郎 (東組・海老谷)
北井 嘉辰 (中組・吉野辺)
大沢 泰一 (殿)
山内 一美 (和田・新)
藤井 博幸 (片野・片野住宅・ヴェルヒュー・田原駅前)

谷口 早苗 (神吉上)
大槻 昌伸 (神吉上)
中嶋 よし江 (神吉下・和田)
《主任児童委員》
中川 能季・八木 節子

〔美山町地域〕 《民生児童委員》

中野 愛子 (南・北)
名古 清 (中・河内谷)
上野 清美 (下・知見)
大牧 貞子 (江和・田歌)
登尾 久嗣 (若生・白石・佐々里)
桂 ひさ子 (又林・下平屋)
高野 長司 (上平屋・安掛)
菅井 正巳 (野添・長尾・深見)
栢下 壽 (荒倉・大内・内久保)
植林 央子 (原・板橋・宮脇)
南 清 (下吉田・島)
川勝 仁司 (長谷・上司)
樋口 三千男 (和泉)
山崎 豊子 (静原)
市原 重忠 (今宮・板原・砂木・棚)
大秦 正 (川合・殿・田土・上吉田・林)
上田 孝子 (舟津・松尾・神谷・名島・洞)
田中 幹生 (庄田・脇・熊壁・山森)
小寺 俊彦 (菅野・大野)
藤井 加鶴子 (川谷・岩江戸)
梅津 義明 (脈谷・小淵・音海)
梅津 悦子 (向山・樫原)
《主任児童委員》
坂本 二三恵・中野 忠樹

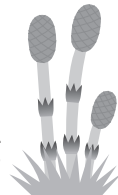
◆民生児童委員に関する

市役所社会福祉課 お問い合わせ
☎〇七七一一六八―〇〇〇七

いきいき南丹

-23-

お元気ですか?
保健師です。



花粉症と上手に付き合うために

～花粉症の予防と治療方法～

今や花粉症は国民病ともいわれ、患者数は全国で二千万人と推定されています。花粉症はアレルギー疾患なので、完全に治すのは難しいことですが、花粉を回避し、薬を上手に利用しながら、花粉の季節を乗り切りましょう。

風邪と花粉症の違いは？

風邪は通常、一週間ほどで治りますが、花粉症は、原因となる花粉が飛んでいる間、症状が続きます。また、花粉症はさらさらした「水っぱな」が出ます。そのほか、目のかゆみがあれば花粉症、熱が出ていれば風邪の疑いが強い、と見分けられます。花粉症かなと思ったら、症状を和らげるためにも、病院で検査を受けてみましょう。

病院では、次のような方法で花粉症かどうか、また原因が何かを検査します。

●鼻鏡検査

鼻鏡を使って鼻粘膜の状態を検査し、鼻炎の原因がアレルギーかどうか調べる

●血清抗体検査

血液中の抗体を検査し、原因となる花粉の種類を調べる

●皮膚反応テスト

皮膚に小さな傷をつけ、花粉エキスを注射して皮膚の反応から、アレルギーの原因を調べる

生活の中で花粉症を防ぐ

花粉の飛散時期には、花粉から遠ざかることが第一です。しかし、現実には花粉から逃れることは不可能なので、次の「生活上の注意点六か条」に留意して、花粉から身を守りましょう。

生活上の注意点六か条

①外出時にはマスクやメガネを着用しましょう。髪の毛についた花粉は落とすにくいので、帽子を利用するのも良い方法です。服装も花粉が落ちやすい目の細かいものを着用しましょう。

②花粉を、家の中に持ち込まない。(帰宅時に玄関で花粉を落とすようにしましょう)

帰宅後の手洗いも忘れずに行いましょう。

③花粉が家の中に入らないようにしましょう。窓を開けて換気する場合は花粉の少ない日、時間帯を選びます。(乾燥した、風の強い日は避ける。特に昼から夕方にかけては花粉が飛散しやすいので注意)

④バランスのとれた食生活にしましょう。緑黄食野菜や豆類などを積極的にとり、栄養のバランスを整えましょう。

⑤睡眠不足に気をつけて、規則正しい生活をおくり、体の抵抗力を高めましょう。

⑥過労や精神的ストレスはアレルギー症状の現れるきっかけになったり、症状の悪化につながります。

花粉症の治療について

花粉症の治療には、医療機関で行う薬物治療、手術治療、減感作療法などがありますが、現時点では完治する率は決して高くなく、新しい治療法の研究や開発が進められています。

薬を使った花粉症予防

薬物による予防法は、基本

的には治療としての薬物療法と同じです。薬物を花粉症の季節の前から予防的に服用し始めることより効果的で、花粉症の症状が軽減されることが期待できます。完全な予防にはなりません。症状が出てから治療を始めるよりも効果的です。

治療の際は医師に相談

薬を点眼や内服して症状が治まったからといって花粉症が治まったわけではありませぬ。根気よく治療することで花粉に反応しにくくなり、症状が軽くなります。医師の指示に従ってきちんと治療を受けることが大切です。

花粉症の症状を和らげるためには、治療と平行して花粉に接する機会を減らすよう努力することが大切です。



ぶらり

なんたん 23



▲雪に覆われた西乗寺正面の山門

さいじょうじ あみだによらい きょうじ ～西乗寺(木造阿弥陀如来、両脇侍座像)～

火難を逃れ、慈悲に満ち溢れた三尊仏

雪景色に映える美山町下平屋の西乗寺。山門をくぐり、本堂右手にある阿弥陀堂には、国の重要文化財指定の阿弥陀如来および両脇侍座像の三尊仏が安置されています。中央の阿弥陀如来座像は、右手を胸前、左手をひざ上に、両手とも親指と人差し指で円形を作る来迎印を結んでいます。これは、臨終に際した人を極楽浄土へ迎えに来る時の印相と言われます。その両脇侍、向かって右に観音菩薩、左に勢至菩薩が並びます。これらは、平安時代後期に活躍した仏師、定朝工房の作と伝えられています。



▲阿弥陀如来(中央)と観音菩薩(右)、勢至菩薩(左)

かつては奈良の地にあったとされる三尊仏は、戦乱・火難を逃れて転々とした後、西乗寺に移され、大正の初めに地元により阿弥陀堂が建立され、安置。昭和二年、国宝(旧)に指定、昭和二十五年の文化財保護法の施行により、国の重要文化財となりました。

数々の火難を逃れてきたことから、火伏せの仏様としても知られ、慈悲に満ち溢れた穏やかな面相で、地元の方をはじめ遠方からお参りに訪れる人々を迎えてくれます。

ちりり案内人



西乗寺住職 桂 隆雄 さん

阿弥陀如来三尊仏が安置されている西乗寺のご住職、桂隆雄さんにお話を伺いました。「阿弥陀如来三尊仏が、なぜこの地に来られることになったのか、さまざまな言い伝えがあって由緒は定かではありません。しかし、縁あって今ここにいらっしゃる仏様を、地元の方々と一緒にお守りしています。国の重要文化財であり、火伏せの仏様とも言われることから、地元の方々も火元には気をつけられています」西乗寺の本尊としては、総ケヤキ造りの本堂に阿弥陀如来立像が安置されています。本堂の縁側から一望する景色は、穏やかでゆったりと風や時の流れが感じられます。◇西乗寺問い合わせ先 ☎(0771) 75-0355

「火難除けの阿弥陀さま」

※「美山・伝承の旅」より抜粋

「阿弥陀三尊」は、奈良から京、京から美山への数奇な運命と火難除け(火伏せ)の仏様として厚い信仰を集めてきた。

戦乱騒然とした中、火難を免れて嵯峨野にあった三尊を、当時、野々村庄(美山)を一円を治めていた川勝豊前守が、そのありがたい三尊像の由来と、村人の願いを聞き、野々村庄への安置を申し出たと言う。そして、九鬼ヶ坂のふもとに「西方寺」という寺を建てた。

室町時代の終わりに野々村庄で野火から山火事になり、九鬼ヶ坂(九鬼ヶ坂)は火の海となった。「阿弥陀さま、どうぞお助けください」とすると突然、猛火の中に黄金に輝く阿弥陀仏の姿が現れた。同時に、にわかに向きが変わり、里の村々は火難を免れることができた。

時は流れて明治初年、西方寺が廃寺になる運命になったとき、西乗寺の門徒衆は、ありがたい阿弥陀三尊をお招きしてお守りすることにした。

各図書館の開館時間

中央図書館：9時～17時

八木図書室：(平日)10時～18時・(日曜)10時～17時

日吉図書室：(平日) 9時～18時

(土・日) 9時～17時

美山図書室：9時～17時・(金曜のみ)11時～18時

図書館へようこそ!



イメージキャラクター“なびっと”

No.8

皆さんの「？」の答えを見つけましょう!

南丹市立図書館・室では、あなたの疑問解決のお手伝いをしています。お気軽に何でも聞いてください。

図書館・室は、「本に関する質問」でなくても、皆さんのいろんな疑問・質問にお答えできるよう、日ごろからさまざまな資料を収集し、情報の提供に努めています。これは、「参考業務」といって、図書館・室の重要な仕事のひとつです。

日常生活でちょっとした「？」を感じた時、もっと地域の図書館・室を活用してみませんか？

これまで皆さんから、図書館に実際に寄せられた質問事例を紹介します。

「自家製の大豆を使って、一から豆腐を作ってみたのだから…」

「もっと年金をもらえるよう、今の受給制度や仕組みを理解したい」

皆さんが「知りたいな！なんだらうな？」と思われることを、気軽に問い合わせしてみてください。

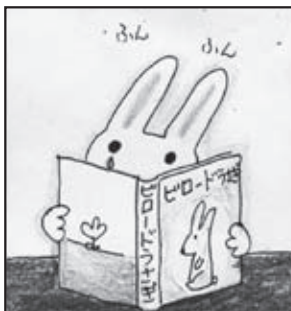
「？」を感じたら、まずは近くの図書館・室へ！いつでも皆さんからのご依頼をお待ちしています。



▲お気軽に窓口へおこしく下さい

なびっとの4こまマンガ

—ピロードのうさぎ—



作：都築 菊子さん
拓也くん (親子)

※この作品は、平成19年8月に募集した「なびっと4こまマンガ」の中から掲載しています。

新刊紹介



「ハラボジの留学」

著…峰 龍一
発行…新読書社

「ハラボジ」とは韓国語で「じいさん」のこと。三十五年間の中学の教員生活を経た後、韓国語を聞き取ることも話すこともままならないのに、突然、韓国の大学に留学したいと言いつ出したハラボジ。二年四ヶ月の留学生活をつづった実体験小説。

「おんぼロボット」

著…アキヤマ レイ
発行…理論社

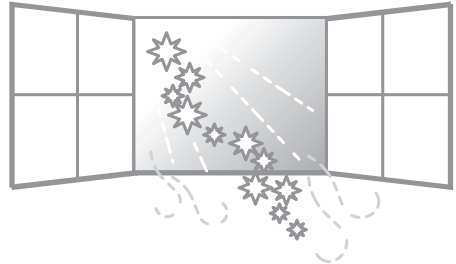
まちはずれの丘の上の「けんきゅうしょ」で博士と暮らしている、ロボットのトト。「いつか町へ行きたいなあ…」ある日トトは町において、ひとりの少年と出会いました…。古典の薫りがする、まったく新しい絵本。

「みーんなダメな子だった」
発行：日経ホーム出版社

子育てに正解などなく、子どもにあるべき姿などない。そんな大切なことをあらためて教えてくれるトップランナーたちの、子どものころのダメストーリーを紹介。
『日経キッズプラス』連載をまとめて単行本化。

「わたし大好き みんな大好き」

人権の窓を開けて、優しい陽の光と、さわやかな風を感じてください



今年、私の担任するクラスは二人のかわいい女の子です。去年の春に入学してきたばかりの、ぴかぴかの一年生です。

四月から、毎日の終わりの会で、お互いの「やさしさみつけ」を行っていきます。最初のうちは、「やさしさみつけ」といっても、自身の生活に精いっぱい友達たちのことをじっくり見ていく余裕のなかった二人ですが、学校生活に慣れ始めたころから、どんどん見つけられるようになってきました。内容は、「Aちゃんが竹馬いっしょにがんばろうねと言ってくれて、やさしいなあと思いました」「Bちゃんの鉛筆を拾ったら、すぐにありがとうと言ってくれてうれしかったです」というように、他愛ないものが多いのですが、一人が発言すると、もう一方も負けずに発言する、そうするとまたもう一方が：という光景は見ていてとてもほほ笑ましいものです。二学期の途中か

らは、お互いの「がんばりみつけ」にも取り組み始め、相手のことをよく見て頑張っていたことを讃え合っています。得意なことでも性格も全く違う二人なのですが、困ったときにはさっと助け合え、お互いの良さを認め合って、「大好き!」と言い合っています。

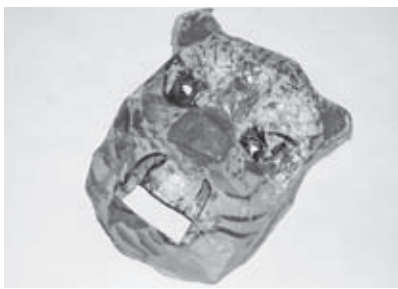
そんな二人を見ていると相手の良さを認めることの大切さに改めて気付かされます。かわいい二人にも、長所もあれば短所もあります。短所に気付き、直そうとすることもとても大切ですが、自分の長所を知っていることは、子どもたちの育ちの中でも、大人社会でもとても大事なことです。ただ自分の良さは、人との関わりの中で気付くことも多いと思います。

これからも、自分の良さも、相手の良さも認められる子どもを育てていきたいと思っています。

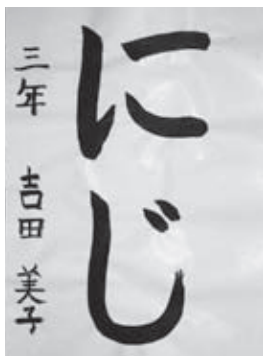
新庄小学校 人権教育主任
山崎 詩子

なんたんミュージアム 7

—南丹市立宮島小学校—



「お面」 黒田 葵さん(5年)



「習字」 吉田 美子さん(3年)



「版画」 黒田 旭さん(1年)



「水彩画」 野嶋 藍さん(6年)



「版画」 本郷 晶さん(4年)



「版画」 湯浅 龍典さん(2年)

美山町文化協会(小畑弘会長)が主催する、新春書初め大会が南丹市美山文化ホールで行われました。

当日は地元の子どもたちや、趣味で書道をされている方など、およそ20人の参加者が、文化協会が用意した見本を参考にしながら、新年の思いを込めて、筆を走らせます。

1時間あまりをかけて、したためられた作品は、美山文化ホールのロビーに展示されました。



▲丁寧に気持ちを込めて筆を走らせる参加者

「新たな気持ちで書にしたためる」

(1/19) 新春書初め大会

「天高く舞い上がる炎に 祈りを込めて」

(1/15) そのべとんどまつり



◀長い竹の先に書き初めを付けて炎にかざします

無病息災と書の上達を祈願する恒例のそのべとんどまつりが、園部公園内の屋内ゲートボール場前の広場で行われました。この伝統行事は昭和57年に地域の輪づくりとふれあいの祭りにしていこうと、旧園部町と商工会が復活させ、以来、毎年多くの人でにぎわいます。今年は園部町商工会の主催で行われ、片山誠治商工会長、佐々木稔納市長、市民の代表の方々により点火されました。訪れた人は勢いよく燃え上がる炎に願いを込め、会場で振る舞われたぜんざいに舌鼓を打ちました。

みんなのひろば まちの話題を 紹介します



身近な話題を広報係(0771)68-0019へお寄せください。

「地域の農産物を生かした加工品が勢ぞろい」

地域の農産物を有効に活用し、活動されている食品加工グループの交流と、今後の加工生産や新商品開発に役立てることを目的に、味自慢交流会「南丹地域ふるさと加工食品新商品開発コンクール」が、南丹市日吉町生涯学習センターで行われました。

南丹地域農村女性・加工研究会、京都府南丹農業改良普及センターの主催で行われたこのコンクールには、南丹市・亀岡市・京丹波町の食品加工グループなどから43品が出展。見た目や味など15項目で審査が行われた結果、南丹市からは、京都府南丹振興局長賞に、三色ちまきグループ(日吉町)の「笹栗」、京都府南丹地域農業士会長賞に、農事組合法人大向営農組合(日吉町)の「特産品弁当」、京都府南丹農業改良普及センター所長賞に、案山子の会(日吉町)の「サンヤーコンの粕漬け」、南丹地域農村女性・加工研究会賞には松本則子さん(八木町)の「柚子菓子」と、パン工房農〜実り〜(日吉町)の黒豆黒パンが選ばれました。

(1/17) 味自慢交流会「南丹地域ふるさと加工食品新商品開発コンクール」



▲地域の農産物を生かして作られた43品を審査



▲雪の降る中を元気に走り出す参加者

南丹市八木運動公園で、大堰川沿いの風景を見ながらジョギングを楽しむ、大堰川ジョギング大会(NPO法人八木町スポーツ協会主催)が行われ、約200人が参加しました。ロードレース1部(2.3km)に95人、同2部(5km)に22人、ファミリージョギング(1.5km)に79人が参加し、寒風の吹く中を沿道からの声援を受けながら勢いよくスタート。ゴール後は地元女性団体の皆さんが用意した「大堰川なべ」が振る舞われ、参加者はアツアツのなべを食べて、お互いの健闘をたたえあい、心と体を温めました。

「寒さに負けるな！元気にジョギング」

(1/27) 大堰川ジョギング大会

「聴覚や言語に障がいのある方を支える」

(1/19) ふない聴覚言語障害センター10周年記念集会

ふない聴覚言語障害センター創設10周年を祝う記念集会が南丹市園部公民館で開催され、およそ170人が参加しました。式典のあと、手話劇や太鼓演奏などが行われ記念集会に花を添えました。

同センターは、平成9年4月に旧船井郡6町の福祉事業を進める拠点として開所。聴覚や言語に障がいのある方々の生活を支援する施設で、聞こえの検査・補聴器の相談、手話通訳者や要約筆記者の養成・派遣などが行われています。



▲手話劇を披露する口丹手話劇団「ピース」

「地域に元気を！人や伝統が息吹く町家工房」

(12/16) 町家工房「息吹」お披露目会・町家工芸市



▲訪れた方々というりを囲んで談笑される高橋代表(右)

園部町本町にある町家工房「息吹」で、京都府地域力再生プロジェクト支援事業の交付金を受けて行った町家の改修工事の完了を機に、近隣住民や行政関係者などを招待して、お披露目会を兼ねた第一回「町家工芸市」が開催されました。この工房は、京都伝統工芸大学の卒業生ら若手職人でつくるNPO法人「京都匠塾」(高橋博樹代表)が昨年3月に開設。歴史とぬくもりのある町家を拠点に、工芸品の創作や、人や文化交流の場として展開されています。自由に見学でき、今後、偶数月には町家工芸市(作品の展示・販売)が行われます。

「思いやりとシクラメンの花をプレゼント」

(1/24) 府立農芸高等学校がシクラメンの鉢植えを寄贈

府立農芸高等学校(園部町南大谷)がシクラメンの鉢植え100個を、市内の高齢者福祉施設などに寄贈されました。このシクラメンは、農産バイオ科草花類型の生徒が研究するトレハロース栽培法で栽培されたもので、介護老人保健施設シミズふないの里(八木町)、特別養護老人ホームヴィラ多国山(八木町)、社会福祉法人長生園(園部町)、老人保健施設はぎの里(日吉町)、社会福祉法人美山やすらぎホーム(美山町)にそれぞれ20鉢ずつ寄贈。このうち、シミズふないの里では、生徒から入所者の皆さんに手渡しされ、うれしそうに受け取られました。



▲入所者に花を手渡す生徒ら(シミズふないの里)



■かやぶき雪灯廊 (美山町北)

今年で4回目を迎えたかやぶき雪灯廊。かやぶきの里の集落内や田んぼやあぜ道などに小さな雪のかまくらを作り、中にロウソクを立て明かりを灯します。雪景色に温かく揺めく灯ろうの明かりと、ライトアップされたかやぶき民家の幻想的な風景が、訪れた人たちを郷愁へといざないます。

かやぶき雪灯廊を撮りに行きました。このイベントは、美山の冬のぬくもりを知ってもらおうと、地元の方々が中心となって開催されています。地域から発信する地域の良さが、灯ろうの明かりとともに、人々の心を包み込むようでした。積雪地帯に暮らす人々には、雪は生活の大きな負担ですが、雪の降る季節こそ、人や家のぬくもりが実感できるのではないのでしょうか。

編集後記



わが家の★
アイドル

●美山町 榎口 詩織ちゃん (6歳5ヵ月)

「もうすぐ一年生ですね。すくすくと育ててください」
(パパ・ママより)



- 総人口：35,616人(-61)
(男：17,149人・女：18,467人)
(-40) (-21)
- 世帯数：13,542世帯(-43)

(平成20年2月1日現在)
()内は前月比

写真掲載の応募をお待ちしています。(応募数によっては順番待ちになることがあります) 詳しくは情報推進課広報広聴係まで

広報
なんたん

編集・発行：南丹市役所 企画管理部情報推進課
〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

TEL:0771-68-0019 FAX:0771-63-0653
URL:http://www.city.nantan.kyoto.jp
e-mail:jouhou-s@city.nantan.kyoto.jp



本紙は環境への配慮から、再生紙に、ソイインキ(大豆油)で印刷しています。